介護現場における 介護ロボット・ICTの導入について

令和5年6月

茨城県長寿福祉課介護保険指導・監査G



(1)介護現場における介護ロボットと ICTの活用について

介護ロボット・ICTとは?

●介護□ボット

- ※次のいずれかの場面で使用する、従来の機器ではできなかった優位性を発揮する機器
- ①移乗介護 ②移動支援 ③排せつ支援 ④見守り・コミュニケーション
- ⑤入浴支援 ⑥介護業務支援

例) パワーアシストスーツ、離床感知センサーマット、排せつ予測センサー、入浴支援機器 等々…



●ICT機器

- ・記録から請求まで業務を一括で行える介護ソフト、システム
- ・記録用、情報共有用のタブレット・スマートフォン

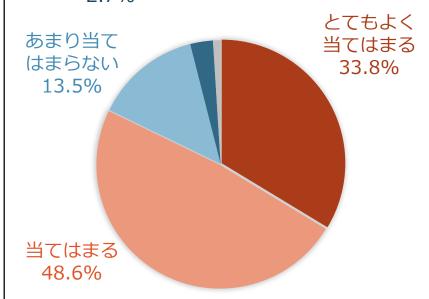


職員の身体的・精神的な負担の軽減、業務の短縮・効率化への期待

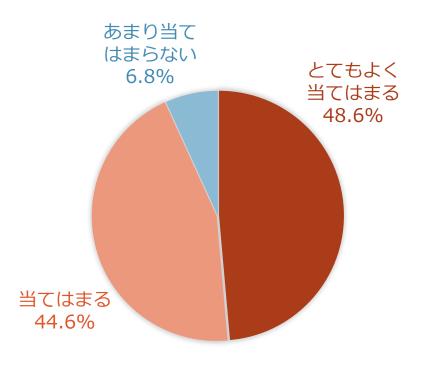
機器の活用効果①(介護ロボット)

(1)業務時間の削減、効率化が 達成できた

当てはまらない 2.7% 未回答 1.4%



(2)職員の身体的、精神的な 負担軽減につながった



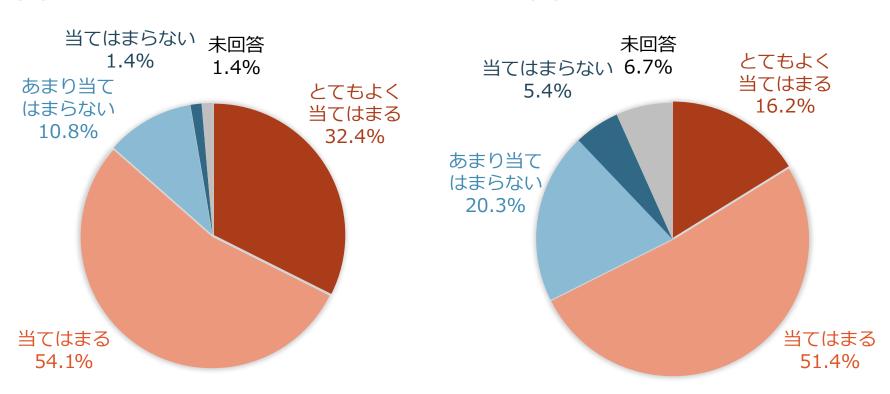
◆R4の使用実績報告書より(H30~R2に導入した74事業所の報告まとめ)



機器の活用効果②(介護ロボット)

(3)利用者のケア向上につながった

(4)職場環境が改善された



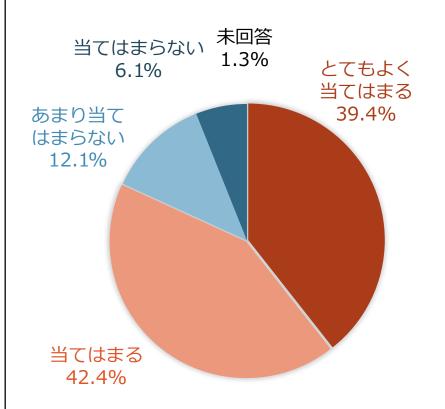
◆R4の使用実績報告書より(H30~R2に導入した74事業所の報告まとめ)

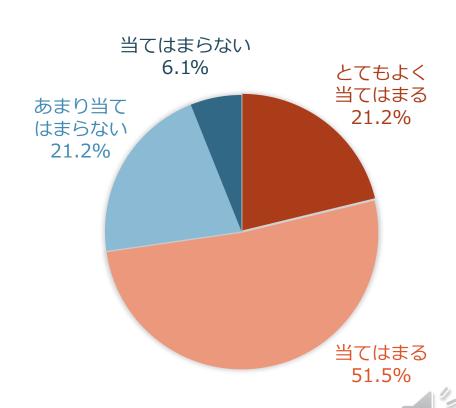


機器の活用効果③(ICT)

介護記録等の管理や保管が 楽になった





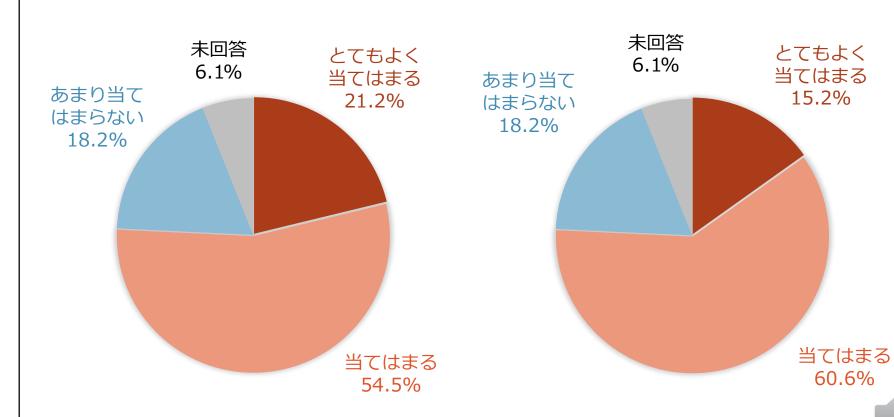


機器の活用効果④(ICT)

業務の効率化が図れた

◆R4の使用実績報告書より(R4に導入した33事業所の報告まとめ)

職場環境が改善された

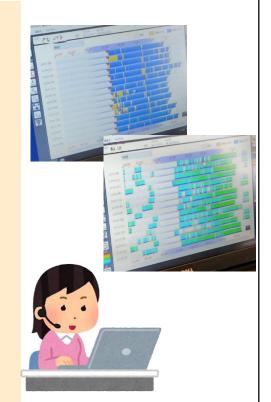


機器の活用効果⑤(ICT)

今後活用していく上での課題	回答数
事業所全体として機器を十分に活用できていない (職員の苦手意識、新しい機器に不慣れ等)	26
操作できる職員が限られており、職員間で業務内容の偏り がある	17
設定や準備に時間がかかる	13

現場における活用事例①

- ●介護ロボット (取材協力:特別養護老人ホーム アクティブハートさかど、令和3年度取材)
- **導入機器** マットレスの下に敷くマット式の見守りセンサー
- 主な機能
- ▶入居者の離床、睡眠状況、心拍数、呼吸数を把握可能
- ▶離床状況等はパソコン画面で確認
- ▶アラームの鳴るタイミングを利用者ごとに設定可能
- 活用状況、効果等
- ▶睡眠状況や呼吸状況が色分けして表示され、一目で分かりやすい
- ▶夜間のおむつ替えやトイレの付き添いで利用者を無理やり起こす 必要が無い
- ▶過去のデータが残るため、医師への説明資料としても活用可能
- ▶個々の生活リズムに合わせたサービスが提供できるようになった ⇒ユニットケアに効果的



現場における活用事例②

●ICT機器

- (取材協力:特別養護老人ホーム あかねサクラ館、令和3年度取材)
- 導入機器 介護ソフト、タブレット
- 主な機能
- ▶介護記録から請求業務まで一括で行うことが可能
- ▶タブレット、パソコンに介護ソフトをインストールして使用
- ▶タブレットで入力した内容が、転記不要でパソコンに連携
- 活用状況、効果
- ▶タブレットによる入力作業で介護記録業務が楽になった(若い職員には使いやすい。)
- ▶過去の記録を簡単に遡ることができる
- ▶直近の状況(食事や排せつ等)をグラフ化し、医師への説明資料にする こともできる
- ▶紙の記録と電子の記録を用途によって使い分けている(業務中に一瞬だけ確認したい時などは、紙の方が便利。)











介護ロボット・ICTの活用について(まとめ)

●「人材確保」という視点から

- 介護ロボットもICTも職員の 負担軽減策として大いに期待 できる
 - ・機械に任せられる仕事は機械に
 - ・介護サービスの更なる向上 (業務の効率化、ケアの向上)
- ▶ 新規入職者の業務を補助
 - ・タブレットによる入力
 - ・見守りセンサー
 - →色の違いで利用者の状況が 分かる
 - ⇒ 新規職員にも分かりやすい

●効果的に導入・活用するには

- > 現場の意見が重要
 - ・現場職員が本当に必要としているものは?
 - ・解決すべき課題を可視化
 - ・経営層・現場間での意見交換
- ▶ 計画作成、目標の明確化
 - プロジェクトリーダー、委員会の設置
 - ・問題に対する解決方法の模索
 - ・職員への研修、業務フローの 見直し
 - ・具体的な数値目標の設定
 - ・段階的な計画作成

●従来のやり方との共存

- ▶ 「すべてデジタル化すれば 良い」わけでは無い
 - ・手段と目的の取り違えに注意
 - ・ベテラン職員の経験則も大事
 - ・アナログな方法が良い時も
 - ・機器に慣れない職員もいる
- ▶ 最適な方法は現場によって 異なる
 - ・従来の介護現場でのやり方を ベースに、
 - ・各現場で試行・職員間での対話 を繰り返しながら
 - ・ロボット・ICTを用いた方が よい部分を発見し、徐々に取り 入れていく



(2)介護ロボット・ICTに関する情報

ロボット介護機器普及支援事業(H27~)

ICT導入支援事業(R3~)

県ホームページにおける情報発信

補助事業(概要)

	ロボット介護機器普及支援事業 (H27~)	ICT導入支援事業 (R3~)
交付先	茨城県内で介護保険サービスを行う施設・事業所	
補助率	2分の1	
補助上限額	●介護ロボット 1台につき 30万円●見守り機器導入に伴う通信環境整備費 1事業所につき 750万円	 ●職員数(常勤換算)による 1~10人 100万円 11~20人 160万円 21~30人 200万円 31人~ 260万円

補助事業の流れ

【県】

- ①その年の事業要項の 発表、事業所への募集
- ④受付・審査採択/不採択の決定⇒内示の送付
- ⑥申請書の審査交付決定通知
- 9実績報告の審査額の確定通知

- ②導入計画の作成
 - ・課題の発見
 - ・目標の設定
 - ・業務フローの見直し

③事前協議書の 作成、提出 ⑤交付申請書等 の作成、提出

- ⑦事業開始
- ・発注⇒納品⇒支払い
- ・導入後の効果を測定
- 8実績報告の作成、 提出

【事業所】

導入後・・・

ロボットは3年間、ICTは2年間、使用状況報告を提出



介護ロボット・ICTに関するお知らせ①

- ▶ 県ホームページで随時情報発信中
 - ◆「介護ロボット全国フォーラム」の開催について (公益社団法人テクノエイド協会)
 - ◆「介護ロボットの試用貸出リスト(概要版)」について (埼玉県社会福祉協議会主催)
- ロボット介護機器とICT機器の導入支援事業について
- ●令和5年度茨城県ロボット介護機器普及支援事業及びICT導入支援事業の実施について
- →<u>ごちら</u> ※【R5.6.16更新】令和5年度補助金事業の事前協議は終了いたしました。
- ●令和4年度茨城県ロボット介護機器普及支援事業及びICT導入支援事業の実施について
- → 256 ※ 令和4年度補助金事業の募集は終了いたしました。
- ●ロボット介護機器導入後3年間の使用状況報告について
- →こちら
- ●ロボット介護機器・ICT機器に関する連絡事項等【R5.6.26更新】「介護現場と開発企業の意見交換実施事業」協力機関の募集についる

→こちら



● 「介護現場と開発企業の意見交換実施事業」協力機関の募集について

このことについて、公益財団法人テクノエイド協会から案内がありました。

以下の事業を実施する企業・メーカーを募集していますので、希望される場合は募集要項を確認のうえ、要項の内容に沿ってお申込みいただきますようお願いいたします。

- (1) 介護現場と開発企業の意見交換実施事業
- (2) 試作介護機器へのアドバイス支援事業
- (3) 介護ロボット等モニター調査事業

なお、本事業に関する問い合わせは、公益財団法人テクノエイド協会に行っていただきますようお願いいたしま す。

公益財団法人テクノエイド協会(ホームページ)(外部サイトヘリンク)

- 「介護ロボット全国フォーラム」の開催について【R5.1.4更新】
- 「介護ロボットの紹介と解説」及び「試用貸出リスト(概要版)」について(埼玉県社会福) 協議会主催) [R4.9.20更新]

介護ロボット・ICTに関するお知らせ②

◆ICT 導入セミナー公開 (YouTube チャンネル)

(厚生労働省)



※厚生労働省 介護現場におけるICTの利用促進 https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-ict.html ◆介護サービス事業所における ICT 機器・ソフトウェア導入に関する手 引き Ver.2 (厚生労働省)



・本体(118 p)



・概要版(7p)

